

Windows 版 View Client ヘルプ

Windows 版 View Client 5.1.0

このドキュメントは新しいエディションに置き換わるまで、ここで書いてある各製品と後続のすべてのバージョンをサポートします。このドキュメントの最新版をチェックするには、<http://www.vmware.com/jp/support/pubs> を参照してください。

JA--00

vmware®

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<http://www.vmware.com/jp/support/>) にあります
VMware の Web サイトでは最新の製品アップデートも提供されています。

このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

Copyright © 2008–2012 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。本製品は、米国著作権法および米国知的財産法ならびに国際著作権法および国際知的財産法により保護されています。VMware 製品には、<http://www.vmware.com/go/patents-jp> に列記されている 1 つ以上の特許が適用されます。

VMware は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。他のすべての名称ならびに製品についての商標は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴァイエムウェア株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

目次

- 1 View Client について 5
 - 2 View デスクトップへのログイン 7
 - 3 View Client の証明書チェック モード 9
 - 4 USB デバイスの接続 11
 - 5 テキストとイメージのコピー アンド ペースト 13
 - 6 Adobe Flash の表示の制御 15
 - 7 デスクトップの切り替え 17
 - 8 デスクトップからのログオフまたは切断 19
 - 9 デスクトップからの印刷 21
 - 10 ローカル モードでのデスクトップの操作 23
 - デスクトップのチェックアウト 23
 - ローカル デスクトップのシャットダウンまたはサスペンド 24
 - デスクトップのバックアップ 24
 - デスクトップのチェックイン 25
 - デスクトップのロールバック 25
 - 11 View Client のトラブルシューティング 27
 - View Client が予期せずに終了する場合の対処 27
 - デスクトップのリセット 27
 - View Client のアンインストール 28
- インデックス 29

View Client について

VMware View™ Client を使用して、View デスクトップに接続できます。これらのヘルプトピックでは、デスクトップへの接続および使用手順について説明します。

デスクトップおよびデスクトップにインストールされたソフトウェアについて詳しくは、View 管理者へお問い合わせください。

View デスクトップへのログイン

View Connection Server にログインした後、使用を許可されている View デスクトップに接続できます。

開始する前に

View 管理者から以下の情報を取得します：

- VPN（仮想プライベート ネットワーク）接続をオンにするかどうかに関する指示。
- VMware View server への接続に使用するサーバ名。
- ポートが 443 ではない場合、VMware View server への接続に使用するポート番号。
- ユーザー名とパスワード、RSA SecurID ユーザー名とパスコード、RADIUS 認証ユーザー名とパスコード、スマートカード個人識別番号（PIN）などのログインに必要な認証情報。
- ログインするためのドメイン名。

管理者が許可している場合、View Connection Server から提示される SSL 証明書について、証明書確認モードを構成できます。使用するモードを決定するには、[第 3 章「View Client の証明書チェック モード \(P. 9\)」](#)を参照してください。

手順

- 1 VPN 接続が必要な場合、VPN をオンにしてください。
- 2 デスクトップのショートカットをダブルクリックするか、次のメニューをクリックします。 [Start (スタート)] - [プログラム] - [VMware] - [VMware View Client]。
- 3 [Connection Server] ドロップダウン メニューで、View Connection Server またはセキュリティ サーバのホスト名を入力します。
- 4 [オプション] をクリックし、自分が使用できるオプションまたは管理者から使用するように指示されたオプションを指定します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| Log in as current user (現在のユーザーとしてログイン) | このチェック ボックスは、View Administrator でのグローバル設定に従って表示または非表示になります。ローカル モードで使用するために View デスクトップをチェックアウトする場合は、このチェック ボックスを選択しないでください。 |
| ポート | このフィールドを空白のままにすると、デフォルト ポート 443 が使用されます。 |
| 自動接続 | このチェック ボックスを選択した場合、次に View Client を起動すると [Connection Server] フィールドが無効になり、[Autoconnect (自動接続)] チェック ボックスを選択したときに指定したサーバに接続されます。このチェック ボックスの選択を解除するには、次に表示されるダイアログ ボックスをキャンセルし、[Options (オプション)] をクリックしてこの設定を表示し、変更します。 |
| SSL の構成 | View の管理者が許可している場合、この手順の前提条件に記載されているように、このリンクをクリックして、証明書確認モードを設定できます。 |

- 5 [接続] をクリックします。

ログイン ダイアログ ボックスが表示される前に、確認する必要があることを知らせるメッセージが表示されます。

- 6 RSA SecurID の認証情報または RADIUS の認証証明書を入力を求められた場合、ユーザー名とパスコードを入力して [[続行]] をクリックします。

- 7 ログイン ダイアログ ボックスでユーザー名とパスワードを入力し、ドメインを指定し、[ログイン] をクリックします。

接続サーバダイアログ ボックスで [現在のユーザーとしてログイン] を選択し、View Connection Server へのログインを許可されている場合、ユーザー名とパスワードの入力を求められることはありません。

ユーザー名を <ユーザー@ドメイン> として入力した場合は、アットマーク (@) があるためユーザー プリンシパル名 (UPN) として扱われ、ドメインのドロップダウン メニューは淡色表示になります。

- 8 表示されるデスクトップの一覧の中から、デスクトップを選択します。

- a (オプション) [Display (ディスプレイ)] ドロップダウン メニューで、View デスクトップを表示するためのウィンドウ サイズを選択します。

選択した表示設定はデフォルト設定として保存され、次にデスクトップを開いたときに使用されます。

- b (オプション) 表示プロトコルを選択するには、リスト内でデスクトップの隣の下矢印をクリックし、[Display Protocol (プロトコルの表示)] をクリックし、プロトコルを選択します。

この選択は、View 管理者が選択を有効にしている場合にのみ可能です。PCoIP は、画像、オーディオ、ビデオなどのコンテンツを LAN または WAN 経由で配信して PC 上でスムーズに再生する目的に最適化されています。

注意 スマート カードの認証情報を使用してログインしている場合、プロトコルを切り替えるには、いったんログオフしてから再びログオンする必要があります。

選択したプロトコル設定はデフォルト設定として保存され、次にデスクトップを開いたときに使用されます。

- 9 [接続] をクリックします。

デスクトップに接続されます。

次に進む前に

1 つのデスクトップに接続した後に、さらに別のデスクトップに接続することができます (接続が許可されている場合)。[第 7 章「デスクトップの切り替え \(P. 17\)」](#) .

ログインするたびにこの View デスクトップに接続するには、デスクトップで [オプション] メニューから [このデスクトップに自動接続] を選択します。

View Client の証明書チェック モード

管理者は、またときにはエンド ユーザーは、サーバの証明書チェックが失敗した場合にクライアント接続を拒否するかどうかを設定できます。

証明書確認は、View 接続サーバと View Client 間の SSL 接続に対して実行されます。証明書検査では、次のような検査が行われます。

- 証明書は失効しているか。証明書が失効しているかどうかを判断することは可能か。
- 証明書の目的は、送信側の ID 検証やサーバ通信の暗号化以外にあるか。つまり、証明書のタイプは正しいか。
- 証明書は期限切れになっているか、また有効なのは未来のみか。つまり、証明書はコンピュータの時刻に応じて有効になっているか。
- 証明書上の共通名は、それを送信するサーバのホスト名と一致しているか。ロード バランサが View Client をあるサーバにリダイレクトする際に、証明書が View Client に入力したホスト名と一致しない場合、不一致が発生する可能性があります。クライアントにホスト名ではなく IP アドレスを入力した場合でも、不一致の原因となる可能性があります。
- 不明なまたは信頼されていない証明機関 (CA) によって署名された証明書か。自己署名された証明書は、信頼されていない CA の証明書タイプの 1 つです。

チェックをパスするには、証明書のトラスト チェーンが、デバイスのローカル証明書ストアでルートになっている必要があります。

デスクトップへのログインに View Client を使用していて、管理者の許可を受けている場合には、[[SSL の構成]] をクリックすると証明書チェック モードを設定できます。選択肢は次の 3 つです。

- [[信頼が確認されていないサーバには絶対に接続しない]]。証明書の確認に失敗した場合、クライアントはサーバに接続できなくなります。失敗したチェックは、エラー メッセージに一覧表示されます。
- [[信頼されていないサーバに接続する前に警告する]]。サーバが自己署名証明書を使用していることが原因で、証明書の確認に失敗した場合、[[続行]] をクリックして警告を無視することができます。自己署名証明書の場合、証明書名は View Client に入力した View 接続サーバ名と一致する必要はありません。

証明書が期限切れの場合でも、警告を受信します。

- [[サーバ ID 証明書を検証しない]]。この設定は、証明書チェックは View によって一切実行されないことを意味します。

証明書確認モードが [[警告]] に設定されている場合でも、自己署名証明書を使用する View 接続サーバインスタンスに接続することができます。

重要 チェックアウトした View デスクトップをローカル システム上で使用する場合、企業ネットワークに接続していると、View デスクトップにログインしたタイミングで上記のように証明書チェックが実行されます。企業ネットワークに接続していない場合には、証明書チェックは実行できません。View デスクトップは、証明書チェックが成功したかのように実行されます。

USB デバイスの接続

プリンタなど、ローカルで接続された USB デバイスを View デスクトップから使用できます。

一部のデバイスは、View デスクトップ経由でデバイスに接続しなくてもデフォルトで利用可能である場合があります。ローカルで接続された USB デバイスの使用は、Windows XP、Windows XPe、Windows Vista、および Windows 7 コンピュータで動作する View Client でサポートされています。

ネットワークの遅延が原因で、これらのデバイスとの通信が低速になる場合があります。USB デバイスとの通信中にアプリケーションがフリーズしたように見える場合があります。大容量の USB ディスク ドライブは、デスクトップに表示されるまでに数分かかることがあります。

オペレーティングシステムのアップグレード時に自動的に再起動されるスマートフォンやタブレットなどの USB デバイスを接続する予定がある場合、USB デバイスを View デスクトップに自動的に接続するように View Client を設定できます。そのように構成しないと、デバイスの再起動時に View Client が切断したときに、このデバイスは View デスクトップではなくローカルシステムに接続します。

開始する前に

- View 管理者が、View デスクトップの USB 機能を有効にしている必要があります。
- View Client のインストール時に、[USB リダイレクト] コンポーネントがインストールされている必要があります。このコンポーネントをインストール時に追加していない場合は、再びインストーラを実行してコンポーネントを変更し、[USB リダイレクト] コンポーネントを追加してください。

手順

- 1 USB デバイスをクライアント システムに接続します。
- 2 View デスクトップのタイトル バーで、[USB デバイスの接続] をクリックします。
- 3 デバイスを選択します。
- 4 デスクトップに接続したときに USB デバイスを自動的に接続するには、次のメニューをクリックします。[USB デバイスの接続] - [USB デバイスを自動接続]。

オペレーティングシステムの更新でシステムを再起動する必要があるスマートフォンおよびタブレットを同期する予定がある場合、この自動接続機能を必ず使用してください。デバイスは、再起動後にデスクトップに再接続します。

USB デバイスがデスクトップに表示されます。これには 20 秒ほどかかる場合があります。デバイスを最初にデスクトップに接続するときに、ドライバのインストールを求められる場合があります。

数分経った後も USB デバイスがデスクトップに表示されない場合は、デバイスをクライアント コンピュータから切断して、もう一度接続してみてください。

テキストとイメージのコピー アンド ペースト

5

管理者がこの機能を有効にしていると、リモートの View デスクトップとクライアントシステムの間、または 2 つの View デスクトップの間で書式付きテキストやイメージをコピー アンド ペーストできます。制限事項がいくつか存在します。

PCoIP 表示プロトコルを使用し、View 5.x 以降の View デスクトップを使用している場合、View の管理者は、クライアントシステムから View デスクトップへ、または View デスクトップからクライアントシステムへのコピー アンド ペースト操作のみを許可するように設定できます。また、双方向のコピー アンド ペースト操作を許可したり、これらの操作を禁止したりすることもできます。

サポートされているファイル形式は、テキスト、画像、RTF (リッチテキストフォーマット) です。コピー アンド ペーストの操作では、クリップボードに 1MB のデータを格納できます。書式付きテキストをコピーする場合、そのデータの一部はテキストで、一部は書式設定情報になります。たとえば、800KB のドキュメントをコピーするときには 1MB 以上のデータが使用される可能性があります。これは、200KB 以上の RTF データがクリップボードに格納されることが考えられるためです。

大量の書式付きテキストまたはテキストとイメージをコピーする場合、そのテキストとイメージをペーストしようとすると、プレーンテキストの一部または全部は表示されますが、書式設定やイメージは表示されません。なぜなら、これらの 3 種類のデータは別々に保存されることがあるからです。たとえばイメージは、コピー元のドキュメントの種類に応じて、イメージまたは RTF データとして保存されます。

テキストおよび RTF データが 1MB 未満である場合には、書式付きテキストはペーストされます。RTF データは切り捨てできないのが一般的であるため、テキストと書式設定で 1MB 以上を使用する場合には、RTF データは破棄され、プレーンテキストがペーストされます。

1 回の操作で選択した書式付きテキストとイメージのすべてをペーストできない場合には、1 度に少しずつコピー アンド ペーストする必要があります。

View デスクトップとクライアントコンピュータのファイルシステムの間では、ファイルのコピー アンド ペーストはできません。

Adobe Flash の表示の制御

View 管理者は、View デスクトップに表示する Adobe Flash コンテンツについて、コンピューティング リソースを消費しすぎないように設計されたレベルに設定できます。場合によっては、これらの設定によって再生品質が低下することがあります。デスクトップのマウス ポインタを使用し、View 管理者が指定した Adobe Flash 設定を上書きすることができます。

Adobe Flash の表示制御機能は、Windows 上の Internet Explorer セッション、および Adobe Flash バージョン 9 および 10 でのみ利用できます。Adobe Flash の表示品質を制御するには、Adobe Flash がフルスクリーン モードで実行されている必要があります。

手順

- 1 View デスクトップの Internet Explorer で、関連する Adobe Flash コンテンツを参照し、必要に応じて開始します。
View 管理者が構成した Adobe Flash 設定によっては、フレームが欠けたり、再生品質が低下したりすることがあります。
- 2 再生中に、マウス ポインタを Adobe Flash コンテンツに移動します。
カーソルが Adobe Flash コンテンツにある間は、表示品質が改善されます。
- 3 品質の向上を保つには、Adobe Flash コンテンツの中でダブルクリックします。

デスクトップの切り替え

デスクトップに接続している場合に、別のデスクトップに切り替えることができます。

手順

- ◆ View デスクトップメニューバーから [[オプション]] - [[デスクトップを切り替え]] を選択し、表示するデスクトップを選択します。

| オプション | 操作 |
|--------------------------|---|
| 同じサーバの View デスクトップを選択する | デスクトップ名が一覧表示されない場合、[[その他のデスクトップ]] を選択して、デスクトップ選択一覧から別のデスクトップを選択します。 |
| 異なるサーバの View デスクトップを選択する | 同じサーバ上に置きたくないデスクトップがある場合は、View Client を終了した後、再起動して、別のサーバに接続します。 |

デスクトップからのログオフまたは切断

ログオフせずに View デスクトップから切断すると、アプリケーションは開いたままになります。

View デスクトップに接続していないときに、最初に接続しなくてもログオフできます。この機能を使用すると、デスクトップに <Ctrl> + <Alt> + を送信してから [[ログオフ]] をクリックすると同じ結果になります。

注意 Windows のキーの組み合わせ <Ctrl> + <Alt> + は、View デスクトップではサポートしていません。<Ctrl> + <Alt> + の代わりに、メニューバーから [デスクトップ] - [Ctrl+Alt+Del の送信] を選択することもできます。

あるいは、<Ctrl> + <Alt> + <Insert> を押します。

View デスクトップをローカル モードで使用している場合は、切断またはログオフの代わりに、[「ローカル デスクトップのシャットダウンまたはサスペンド \(P. 24\)」](#)。

手順

- ログオフせずに切断する。

| オプション | 操作 |
|----------------------------|---|
| View Client も終了する | ウィンドウの隅にある [[閉じる]] ボタンをクリックするか、メニューバーの [[オプション]] - [[切断]] を選択します。 |
| 同じサーバの異なる View デスクトップを選択する | [[オプション]] - [[デスクトップを切り替え]] をメニューバーで選択します。 |
| 異なるサーバの View デスクトップを選択する | View Client を終了して再起動し、異なるサーバに接続します。 |

注意 View 管理者は、切断された時点で自動的にログオフするようにデスクトップを設定できます。その場合、デスクトップで開いているプログラムは停止します。

- ログオフして切断する。

| オプション | 操作 |
|------------------------------|--|
| デスクトップのオペレーティングシステムでメニューバーから | Windows の [スタート] メニューを使用してログオフします。 [[オプション]] - [[切断してログオフ]] を選択します。 この手順を使用すると、初めに、View デスクトップで開いているファイルが保存されずに閉じられます。 |

- View デスクトップに接続していない場合にログオフする。

この手順を使用すると、初めに、View デスクトップで開いているファイルが保存されずに閉じられます。

- a View Client を起動し、View デスクトップへのアクセスを提供する View 接続サーバに接続し、認証情報を入力します。
- b デスクトップ選択リストが表示されたら、デスクトップの隣の下矢印をクリックし、[[ログオフ]]を選択します。

デスクトップからの印刷

View デスクトップから、仮想プリンタ、またはクライアント コンピュータに接続された USB プリンタで印刷を実行できます。仮想印刷と USB 印刷は競合せずに連携して動作します。

仮想印刷

仮想プリンタとは、クライアント コンピュータで利用できるネットワーク プリンタまたはローカル プリンタを View デスクトップ内で表現したものです。View デスクトップから任意の仮想プリンタで印刷を実行できます。仮想プリンタで印刷を実行すると、印刷ジョブが View デスクトップからクライアント コンピュータに転送され、次に物理プリンタに転送されます。

クライアント コンピュータにプリンタを追加すると、そのプリンタは View デスクトップから利用可能になり、ドライバをインストールする必要はありません。デスクトップとクライアント コンピュータから同時にプリンタにアクセスできません。

View デスクトップで、仮想プリンタは「<<プリンタ名>#:<番号>>」のように表示されます。

USB 印刷

View デスクトップから、クライアント コンピュータに直接接続されている USB プリンタで印刷を実行できます。USB 印刷を使用すると、View デスクトップからその USB プリンタに直接アクセスできるようになりますが、クライアント コンピュータからはそのプリンタにアクセスできなくなります。

USB プリンタに印刷するには、適切なドライバが View デスクトップにインストールされている必要があります。

ネットワークの状況によっては、USB 印刷のほうが仮想印刷よりも高速なことがあります。

View デスクトップでは、USB プリンタは「<<プリンタ名>>」と表示されます。

USB プリンタを接続する方法については、[第 4 章「USB デバイスの接続 \(P. 11\)」](#)。

ローカル モードでのデスクトップの操作

ローカル モードの View デスクトップは、リモート デスクトップと同じように動作しますが、ローカル リソースを使用でき、ネットワーク接続は必要ありません。

View デスクトップをチェックアウトすると、デスクトップがクライアント コンピュータにダウンロードされ、ローカルで実行できるようになります。チェックアウトしている間に View デスクトップをサーバにバックアップし、ローカル デスクトップで行った変更内容を保存できます。

ローカル デスクトップを使用していないときは、デスクトップをシャットダウンまたはサスペンドできます。ローカル デスクトップの使用を終了したら、デスクトップをサーバにチェックインできます。または、デスクトップをロールバックして、実行した変更を破棄することもできます。

View 管理者がこの機能を有効にしておく必要があります。

この章では次のトピックについて説明します。

- [デスクトップのチェックアウト \(P. 23\)](#)
- [ローカル デスクトップのシャットダウンまたはサスペンド \(P. 24\)](#)
- [デスクトップのバックアップ \(P. 24\)](#)
- [デスクトップのチェックイン \(P. 25\)](#)
- [デスクトップのロールバック \(P. 25\)](#)

デスクトップのチェックアウト

View デスクトップをチェックアウトすると、デスクトップがクライアント コンピュータにダウンロードされ、ローカルで実行できるようになります。このローカルバージョンのデスクトップは、ネットワーク接続がある場合でもない場合でも使用できます。

デスクトップをチェックアウトできるのは、View 管理者がこの機能を有効にしている場合のみです。

ログインするときに [現在のユーザーとしてログイン] チェック ボックスを選択した場合は、デスクトップをチェックアウトできません。

デスクトップのチェックアウトが完了するまでには、少なくとも数分、おそらくはそれ以上かかり、クライアント コンピュータのディスク領域を大量に消費します。

開始する前に

View Client with Local Mode を使用している必要があります。

手順

- ◆ デスクトップをチェックアウトします。

| オプション | アクション |
|---------------|--|
| View デスクトップから | タイトルバーで、[オプション] - [チェックアウト] を選択します。 |
| デスクトップ選択リストから | チェックアウトするデスクトップの横にある下矢印をクリックして [チェックアウト] を選択します。 |

デスクトップを最初にチェックアウトするとき、[オプション] をクリックして、ローカル デスクトップが保存されるディレクトリを確認または変更できます。



注意 USB ドライブなどの取外し可能ストレージ デバイスにはデスクトップをチェックアウトしないでください。取外し可能ストレージ デバイスにデスクトップを格納することはできませんが、デスクトップが動作するのは、デスクトップをローカルで実行しているクライアント コンピュータにデバイスが接続されているときに限られます。チェックアウト中にストレージ デバイスを切断すると、データが失われる可能性があります。チェックアウトは自動的に一時停止または再開されません。

進行中のチェックアウトを一時停止するには、[チェックアウトを一時停止] を選択します。一時停止したチェックアウトを再開するには、[チェックアウトを再開] を選択します。進行中のチェックアウトをキャンセルするには、[チェックアウトをキャンセル] を選択します。

ローカル デスクトップの使用を終了したら、変更内容をサーバにチェックインするか、またはロールバックして変更内容を破棄できます。

ローカル デスクトップのシャットダウンまたはサスペンド

ローカル デスクトップを使用していないときは、デスクトップを閉じることができます。ローカル デスクトップをシャットダウンまたはサスペンドできます。

開始する前に

デスクトップでファイルを開いている場合は、それらを保存して閉じます。

手順

- ◆ View デスクトップの [オプション] メニューから、デスクトップを閉じる方法を選択します。

| オプション | 説明 |
|-------------|---|
| サスペンドする | View Client を閉じる際に、すべての使用中プログラムを現在の状態で保存します。デスクトップに再接続すると、プログラムはサスペンドする前と同じ状態で再開します。 注意 デスクトップのサスペンドには、デスクトップのシャットダウンよりも時間がかかります。 |
| ゲストのシャットダウン | View Client を閉じ、開いているすべてのプログラムを停止します。保存されてないデータは失われます。このオプションは、デスクトップに <Ctrl> + <Alt> + を送信してから [シャットダウン] をクリックするのと同じ結果になります。 |

タイトルバーの [閉じる] ボタンをクリックすると、View 管理者によるデスクトップの設定に応じて、デスクトップはサスペンドまたはシャットダウンされます。

デスクトップのバックアップ

デスクトップをサーバにバックアップし、ローカル デスクトップで行った変更内容を保存できます。

デスクトップをバックアップできるのは、View 管理者がこの機能を有効にしている場合のみです。

開始する前に

- デスクトップがチェックアウトされている必要があります。

- ネットワークに接続している必要があります。

手順

- ◆ デスクトップをバックアップします。

| オプション | 操作 |
|---------------|---|
| View デスクトップから | システムトレイにある [VMware View] アイコンをダブルクリックしてバックアップダイアログボックスを開き、[バックアップを要求] をクリックします。 |
| デスクトップ選択リストから | バックアップするデスクトップの横にある下矢印をクリックして [バックアップを要求] を選択します。 |

進行中のバックアップを一時停止するには、[バックアップを延期] をクリックします。バックアップを一時停止できるのは、View 管理者がこの機能を有効にしている場合のみです。

一時停止したバックアップを再開するには、[延期したバックアップをレジューム] をクリックします。

バックアップの状態を表示するトースト通知を無効にするには、[VMware View] トレイ アイコンを右クリックして [バックアップ通知を無効にする] を選択します。

デスクトップのチェックイン

ローカル デスクトップの使用を終了したら、デスクトップをサーバにチェックインできます。

View デスクトップをチェックインできるのは、View 管理者がこの機能を有効にしている場合のみです。

チェックイン中はデスクトップにアクセスできません。

開始する前に

- デスクトップがチェックアウトされている必要があります。
- ネットワークに接続している必要があります。

手順

- ◆ デスクトップをチェックインします。

| オプション | 操作 |
|---------------|--|
| View デスクトップから | タイトルバーで、次のように選択します。[オプション] - [チェックイン]. |
| デスクトップ選択リストから | チェックインするデスクトップの横にある下矢印をクリックして [チェックイン] を選択します。 |

進行中のチェックインを一時停止するには、[チェックインを一時停止] を選択します。一時停止したチェックインを再開するには、[チェックインを再開] を選択します。進行中のチェックインをキャンセルするには、[チェックインをキャンセル] を選択します。

デスクトップがサーバにチェックインされ、チェックアウトを許可されている他のユーザーがチェックアウトできるようになります。

デスクトップをチェックインしても、クライアント コンピュータのディスク ドライブからローカル デスクトップ ファイルが削除されることはありません。

デスクトップのロールバック

ローカル デスクトップをロールバックすると、デスクトップで実行した変更は破棄されます。最後のチェックアウトまたはサーバへのバックアップよりも後に更新されたすべてのデータは失われます。

デスクトップをロールバックできるのは、View 管理者がこの機能を有効にしている場合のみです。

ロールバック中はデスクトップにアクセスできません。

開始する前に

- デスクトップがチェックアウトされている必要があります。
- ネットワークに接続している必要があります。

手順

- ◆ デスクトップをロールバックします。

| オプション | 操作 |
|---------------|--|
| View デスクトップから | タイトルバーで、[オプション] - [ロールバック]. |
| デスクトップ選択リストから | ロールバックするデスクトップの横にある下矢印をクリックして [ロールバック] を選択します。 |

デスクトップはローカルでの動作を停止します。

デスクトップをロールバックしても、クライアント コンピュータのディスク ドライブからローカル デスクトップ ファイルが削除されることはありません。

View Client のトラブルシューティング

View Client に関するほとんどの問題は、デスクトップのリセットまたは VMware View Client の再インストールで解決することができます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [View Client が予期せずに終了する場合の対処 \(P. 27\)](#)
- [デスクトップのリセット \(P. 27\)](#)
- [View Client のアンインストール \(P. 28\)](#)

View Client が予期せずに終了する場合の対処

ユーザーが終わらせたわけではないのに View Client が終了する場合があります。

問題

View Client が予期せずに終了する場合があります。View Connection Server の構成によっては、「**View Connection Server への安全な接続がありません**」のようなメッセージが表示される場合があります。メッセージが表示されない場合もあります。

原因

この問題は、View Connection Server への接続が失われると発生します。

解決方法

- ◆ View Client を再起動します。View Connection Server が再び実行するようになるとすぐに正常に接続できます。接続の問題が解決しない場合は、View 管理者へお問い合わせください。

デスクトップのリセット

リセット操作を実行すると、デスクトップがシャットダウンおよび再起動されます。保存されていないデータは失われます。

デスクトップオペレーティングシステムが応答しなくなった場合、デスクトップのリセットが必要となる場合があります。

View デスクトップをリセットする操作は、物理的な PC を強制的に再起動するためにその PC のリセット ボタンを押す操作に相当します。View デスクトップで開いているすべてのファイルが、保存されずに閉じられることとなります。

デスクトップをリセットできるのは、View 管理者がこの機能を有効にしている場合のみです。

手順

- ◆ [デスクトップのリセット] コマンドを使用します。

| オプション | 操作 |
|----------------------|--|
| デスクトップのオペレーティングシステムで | メニュー バーから [オプション] - [デスクトップのリセット] を選択します。 |
| デスクトップ選択リストから | a View Client を起動し、View デスクトップへのアクセスを提供する View Connection Server に接続し、認証情報を入力します。 b デスクトップ選択リストが表示されたら、デスクトップの隣の下矢印をクリックし、[デスクトップのリセット] を選択します。 |

View デスクトップのオペレーティング システムが再起動されます。View Client がデスクトップから切断されます。

次に進む前に

システムが再起動するのを待ってから、View デスクトップへの接続を試行します。

View Client のアンインストール

View Client の問題を VMware View Client アプリケーションをアンインストールし、再インストールして解決できることがあります。

他のアプリケーションをアンインストールするのと同じ方法で、View Client をアンインストールします。

たとえば、Windows オペレーティング システムで使用できる [プログラムの追加または削除] アプレットを使用して、VMware View Client アプリケーションを削除します。

アンインストールが完了すると、アプリケーションを再インストールできます。

インデックス

A

Adobe Flash ビデオ、制御 15

C

Ctrl+Alt+Delete 19

Ctrl+Alt+Del メニューコマンド/ソウシン 19

U

USB デバイス 11

USB デバイスの自動接続 11

USB プリンタ 21

V

View Client

概要 5

デスクトップから切断 19

トラブルシューティング 27

予期しない終了 27

View Client のアンインストール 28

View Connection Server、接続 7

View デスクトップ

チェックイン 25

ロールバック 25

View デスクトップのチェックイン 25

View デスクトップのロールバック 25

い

イメージ、コピー 13

お

オプション

画面レイアウト 7

表示プロトコル 7

か

仮想プリンタ 21

画面レイアウト 7

環境設定、デスクトップ 7

し

証明書、問題の無視 9

せ

接続

USB デバイス 11

View Connection Server 7

ログイン 7

て

テキスト、コピー 13

テキストとイメージのコピー 13

テキストとイメージのペースト 13

デスクトップ

サスペンド 24

シャットダウン 24

接続 7

チェックアウト 23

バックアップ 24

表示オプション 7

表示プロトコル 7

リセット 27

ローカル 23

desktop

切り替え 17

ログオフ 19

デスクトップから印刷 21

View デスクトップカラセツダン 19

デスクトップの切り替え 17

デスクトップのサスペンド 24

デスクトップのシャットダウン 24

デスクトップのチェックアウト 23

デスクトップのバックアップ 24

デスクトップのバックアップの一時停止 24

デスクトップのバックアップの延期 24

デスクトップのバックアップの再開 24

デスクトップのリセット 27

デバイス、USB への接続 11

と

ドメイン 7

トラブルシューティング 27

ひ

表示オプション、デスクトップ 7

表示プロトコル、デスクトップ 7

ろ

ローカル デスクトップ 23

ログイン、View Connection Server 7

ログオフ 19

